

毎月最終土曜日に掲載予定

絵本「ピーターラビット」シリーズは幅広い人気がある。その作者ビアトリクス・ポターは十九世紀後半のロンドンで生まれた。本展では、絵本の原画や手稿、彼女の生涯を語る品が展示され、英国でも見られない点数が並ぶ。絵にはあらずじや絵本の本文がそえられていてわかりやすい。

ポターは知り合いの子どもにつぎぎを主人公にした絵手紙を書き、それが絵本の元になったが、そこにいたる流れがある。まずターナーらの風景画に見られる自然への愛と、それを描く水彩画の技法の発達である。また「不思議の国のアリス」の作者キャロ

鋭い観察眼で擬人化

ルとも共通する、ときにブラックなユーモアの精神である。その一方印刷技術が向上し、同時に子どもにも良質の楽しみを与えたいという教育観が広まって、絵本の出版と普及が可能になった。

だがそれがすべてではな

い。「ベンジャミン バニーのおはなし」(一九〇四年)などの原画を前にすると、ポターの創作力と画力にあらためて驚かされる。彼女は少女時代に、家族と英国中部の湖水地方を訪れた。そこを舞台とし、鋭い観察眼にもとづく写



ビアトリクス・ポター『ベンジャミンバニーのおはなし』挿絵(水彩、紙)英国ナショナル・トラスト所蔵
©Frederick Warne & Co., 2017

実的な描写を基本にしながら、動物たちを自然に愛しく擬人化する手法は彼女独特のもので、その個性的な画風は比類のない形で完成されている。

ポターは湖水地方の自然と農村を愛して後半生はそこに住み、印税で広大な土地を購入して、美しい景観を環境破壊から守るための団体ナショナル・トラストに遺贈した。

その地域は今年、世界遺産に登録された。彼女は自らキャラクター商品も手がけた。作品の魅力も、時代の先を見て行動した芸術家ポターの人物像もわかる展覧会である。

(浅野和生) 愛知教育大教授

▶ 名古屋市博物館 052(853)2655 11月5日まで